

令和7年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現にむけて～

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DO リストについて、HPで公開したり、児童と共有したりして、付けたい力を明確にし、活用している。

(R5:設定、公表、把握100%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、外国語の学習に対する興味・関心についての割合に増加が見られる。

・英語の勉強は好きだ。
(R5:70.3%⇒R6:70.5%)
・英語の勉強は大切だ。
(R5:91.8%⇒R6:92.5%)

未だ改善が必要な点

①学校訪問から、言語活動について、言語活動の質に課題が見られる。

②県独自の学力調査から、まとまりのある英語を聞いて必要な情報を聞き取ることや文字の読み方を聞いて書くことに課題が見られる。

2. 要因分析

①学校訪問や地域ごとの研修会において、指導主事からの助言や、中学校とCAN-DOリストを共有し、情報交換を行ったことで、CAN-DOリストの活用が進んだと考えられる。

②学校訪問や研修会への参加を通して、県の学力向上の重点をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての理解と実践が進んでいると考えられる。

①言語活動は行っているが、活動が形式化していたり、学習状況の見取りが弱かったりするために、活動後の指導に生かせていないことが要因と考えられる。

②聞くことの指導において、言語活動を行う際に、相手意識や目的意識をもって聞くことができるようにするための指導が不十分である。書くことの指導においては、文字と音を結び付ける指導が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

学力向上プログラム推進事業①②①②

(1)「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の実施
令和の日本型学校教育を踏まえた県の学力向上の重点「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現」の具現化のため、推進校を5校指定し、具体的な指導法や評価の在り方の研究・開発を行い、各学校における授業改善の取組を推進する。

(2) 大学教員派遣
学校における学習指導の改善、教員の授業力向上等を図るため、大学の教員を市町単位の学力向上研修会や学校の校内研修会等に派遣し、専門的な指導・助言を得る。

(3) 指導事例の作成と教員専用サイト
児童の到達状況を把握するため、県独自の学力調査を行い、その結果を分析・考察する。その分析結果をもとに、改善に向けた指導事例を記載し、学校訪問等の指導・助言に生かす。また、児童の学力の向上と確かな学力の育成を目指すために、大学教員による専門的な指導・助言を得て、活用力を図る問題を掲載する。

各種研修の推進①②①②

・指定研修、希望研修
 ・外部の専門機関による研修
 ・教科指導リーダーによる研修
 ・ALTや専科教員のための研修

○教員採用候補者選考試験において、英語免許所有者、英検・TOEFL iBT・TOEIC L&Rで一定の成績を有する者に対して加点を行う制度を継続し、その内容を大学等での採用試験説明会を通じて、周知する。①①

令和7年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成
～『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現にむけて～
○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：52.2%⇒R7：55.0%以上）

☒言語活動 ☒指導と評価の一体化 ☒教師の英語力・指導力 ☐校種間連携 ☐ALTの参画 ☒ICTの活用 ☐AIの活用 ☐その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①県独自の学力調査の結果から学習に対する興味・関心や授業の理解度についての割合に増加が見られる。
・英語の勉強は好きだ。
(R5:58.0%⇒R6:61.9%)
・英語の授業の内容はよくわかる。
(R5:68.6%⇒R6:71.2%)
②R6全国学力・学習状況調査の生徒の質問調査の結果から、学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関する項目において、全項目の割合の増加が見られる。
・即興で自分の考えを伝え合う活動
(R5:70.5%⇒R6:76.0%)
①CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が、目標値までは不十分である。
(R5：53.2%⇒R6：52.2%)
②R6全国学力・学習状況調査の教員の質問調査の結果から、言語活動を行った割合はどの項目も高いが、学校訪問から、言語活動のねらいや教師の見取りに課題が見られる。

2. 要因分析

①学校訪問や地域ごとの研修会において、指導主事からの助言等によって、言語活動等に関する授業改善が進んだと考えられる。
②学校訪問や研修会への参加を通して、県の学力向上の重点をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての理解と実践が進んでいると考えられる。

①ねらいに迫る言語活動やパフォーマンステストの設定が不十分であることや、CEFRを基に生徒の英語力を見取ることができていない。
①②学校間・地域間の差が見られるが、言語活動を通して指導することに対する理解が不十分であることが要因と考えられる。
②言語活動において、生徒の様子を見取り、指導に生かす意識が教員に十分浸透していないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

学力向上プログラム推進事業①②①②

（１）「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」の実施
令和の日本型学校教育を踏まえた県の学力向上の重点「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させた『主体的・対話的で深い学び』の実現」の具現化のため、推進校を5校指定し、具体的な指導法や評価の在り方の研究・開発を行い、各学校における授業改善の取組を推進する。

（２）大学教員派遣
学校における学習指導の改善、教員の授業力向上等を図るため、大学の教員を市町単位の学力向上研修会や学校の校内研修会等に派遣し、専門的な指導・助言を得る。

（３）指導事例の作成と教員専用サイト
児童の到達状況を把握するため、県独自の学力調査を行い、その結果を分析・考察する。その分析結果をもとに、改善に向けた指導事例を作成し、学校訪問等の指導・助言に生かす。また、児童の学力の向上と確かな学力の育成を目指すために、大学教員による専門的な指導・助言を得て、活用力を図る問題を掲載する。

各種研修の推進①②①②

教員の指導力向上や英語力向上のため、教員総合研修センターにて、研修を行う。

・指定研修、希望研修
・教科指導リーダーによる研修
・外部の専門機関による研修
・ALTや専科教員のための研修

令和7年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
R6 : A2以上 58.5%、B1以上 22.9% ⇒ 目標 : A2以上 60%、B1以上 30%
- 授業の50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている割合の向上 R6 : 59.6% ⇒ 目標100%

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステストの実施割合の増加
R4 61.5%
R5 84.4%
R6 96.5%
- ②生徒の言語活動の実施割合の増加
R4 47.8%
R5 47.7%
R6 59.6%

未だ改善が必要な点

- ①求められる英語力
(CEFR A2以上 B1以上)を有する生徒の割合が目標値未達成
A2 R5 59.0%
R6 58.5%
B1 R5 23.7%
R6 22.9%

2. 要因分析

- ①大学教授を招いて、実践を基に評価について専門的な視点から学ぶ機会を設けたことで、学習到達目標への教員の意識が高まった。また教育課程研究集会等でパフォーマンステストの必要性を伝え、評価方法の具体を共有したことで実施状況の改善につながった。
- ②本県の英語教育充事業（R3～R5実施）において、言語活動について推進校を中心に普及を図った。また、教育課程研究集会で、「指導と評価の一体化」をテーマとし、指導したことを評価する重要性を繰り返し伝えることで教員の意識の変化を促した。
- ③本県の英語教育充実事業において課題となっていた、言語活動の質の向上が未だ課題として残っているため、言語活動の時間は増えても、成果に十分に結びついていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③
(1) 言語活動充実に向けた教員の意識啓発
外部講師による講演（今年度テーマ：AI活用）や、教育課程研究集会の中での各校における言語活動実践事例の情報交換を行うことで英語教員の指導力向上につなげる。また、指導と評価の一体化の徹底に向けて、教育課程研究集会での情報提供や、学校訪問時の助言等で授業改善に取り組む。
- (2) 教育課程研究集会における本県英語教育実施状況の共有
県立高校各校の英語教員1名を悉皆する研究会において、英語教育実施状況調査の結果を活用して、本県の英語教育の現状と課題を共有する。
- (3) 授業改善に向けた取組の推進
総合訪問、教科指導訪問、要請訪問を活用し、指導主事からの助言で、言語活動の活性化と質の向上を目指した授業改善を行う。
- ④AIの活用による英語教育強化事業の実施
(1) 英語教育充事業（R3～R5実施）において課題であると判明した言語活動の質的向上ため、AIを言語活動や家庭学習で活用することにより、個に応じた指導の充実に図る。AI活用によって個に応じた発話指導が可能になり、それによって言語活動の質の充実に繋げる。また、生徒の英作文の個別指導においてAIを活用することを推奨し、より効率的な「書くこと」の指導に繋げる。
- (2) モデル校での実践研究を、教育課程研究集会やAI英語活用リーダーの情報交換会を通して発信し、県内全高等学校でのAIを用いた指導実践について普及を図る。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

石川県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	59	60	58.5	60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	25	23.7	30	22.9	30		30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	100	47.7	100	59.6	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	84.4	100	96.5	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	100	94.4	100	93.8	100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	90	24.8	100	38.7	100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	53.2	60	52.2	60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	100	86.1	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	70	52.4	70	51.6	70		70		70	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	100	85.7	100		100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100		100		100		100	